

1. 本教材について

- ▼本教材は、生まれつき右手の指がない少女の、インターネットへの投稿に関する教材である。
- ▼主人公の心情理解に偏ったり、最初から結論がはっきりした読み物教材と異なり、多くのことを考えることのできる良い教材である。
- ▼「相互理解、寛容」という視点と同時に、「公正、公平、社会正義」という視点も併せて考えたい。
- ▼まず、ページさんが自らの姿を公開し、自分の考えを示そうとしたことに注目したい。皆が違っていることを前提に、自分の考えを表明することはわかりあうことの第一歩である。
- ▼ページさんは「個人または集団を一方向的に攻撃したり、批判したり、おとしめたりするコメント」(本教材 p.42) が大量に流れている現状だからこそ、自らの姿を公開し、自分の考えを示そうと投稿したという。
- ▼ページさんの、写真共有サイトへの投稿には、以下のようなメッセージがある。
- ▼ページさんには、生まれつき右手の指がないが、皆ができることは全部できること。
- ▼ページさんにとって、「右手の指がないこと」は髪の毛の色と同じで、それぞれが生まれつき違うことの一つに過ぎないこと。「違い」は悪いことでもマイナスでもない。
- ▼ページさんの「違い」についていろいろと尋ねる子供を、叱らないでほしい。叱ると「違っていること」はまるで悪いもの、見下されるべきもの、になってしまうから。
- ▼授業ではページさんのメッセージを受け止めながら、様々な「違い」について考えたい。

2. 本教材を扱う際に、特に注意すべきだと考えたこと

- ▼ページさんがインターネットに投稿したのは、伝えたい、具体的に明確なメッセージ(考え)があったからである。授業ではページさんが提起した問題を生徒とともに考えたい。
- ▼例えばLGBTを感覚的に受け入れられないという授業者がいるかもしれない。そういう場合には、無理に受け入れられるふりをしないで、生徒とともに考えていきたい。
- ▼中には大変重い課題もあるので、可能ならば時間をかけて取り組みたい。
- ▼時間があれば、様々な障害や「違い」についても調べる機会ができるとうい。

3. 指導過程(2 時間程度の計画)

| | 子どもの活動や教師の発問等 | 留意点 |
|-----|---|--|
| 導入 | <p>ページさんのような「ほかの人と違いがある」人と会ったらどう感じるか、聞いてみる。</p> <p>→びっくりする、目をそらすだろう、思わずじっと見てしまうかもしれない。</p> | <p>2,3 人に聞く。あまり時間をとらない。</p> |
| 展開 | <p>教材をゆっくり読みながら、内容を確認していく。</p> <p>最初の 2 行の内容を確認する。</p> <p>Q: ページさんが自らの姿を公開し、投稿したことをどう思うか→勇気がある、無謀、ばかげた行為など</p> <p>Q: 「違い」というが、具体的にどんなことが「違い」と言えるだろうか。</p> <p>グループで話し合い、具体的な事例を出してもらおう。</p> <p>Q: 互いに違うわたしたちが「分かり合う」ためには、自分の意見を表明することが第一歩なのではないか。どう思うか。</p> <p>→何人かに意見を聞く。</p> <p>Q: 多くの場合、子どもも大人も自分の意見を表明しようとはしないのはなぜだろうか。</p> <p>→何人かに意見を聞く。</p> <p>Q: ページさんは義手を使っている。障害を抱えた人にとって義手に当たるものにはどのようなものがあるか。</p> <p>→車いす、手話など。</p> <p>Q: ページさんに、「指のない手」について尋ねると子どもを叱る親がいるのはなぜなのだろうか。</p> <p>Q: ページさんが「子どもたちを叱る」のではなく「質問させてください」というのはなぜだろうか。</p> <p>グループになって「これまで『違いのある人』とどう接してきたか」を話し合う。話し合いの前に参考として「参考資料」にある事例などを紹介する。</p> | <p>自分の意見を、表明することをどう思うか聞く。皆は意見を表明できているか。問いかけたい。</p> <p>グループを回って助言する。</p> <p>「違い」には「スポーツが得意/苦手」「算数が得意/苦手」「髪の毛の色」「目の色」などから「吃音」「顔のあざ」など様々なものがある。</p> <p>いわゆる「模範解答」ではない意見を出し合うことができるように注意したい。</p> |
| まとめ | <p>「違い」といっても色々である。「障害」について考えればさらに多様な違いがある。これらの「違い」を多くの人は受け入れているだろうか、と問題を提起して終了。</p> | <p>この問題を今後も考えていこうと呼びかける。</p> |

参考資料 他の人とは「違う」人とどう接しているか

▼「見た目問題」について

「見た目問題」の画像

<https://withnews.jp/article/f0191122002qq0000000000000000W06810101qq000020100A>

朝日新聞は 2020 年 1 月に「見た目問題に向き合う」という連載をしている。

見た目が他の人と違う人は他の人の「視線」に苦しんでいる。

▼吃音に関する記事 2019年3月19日毎日新聞大阪夕刊より

人口の1%程度に吃音の傾向があるとされる。原因は解明されておらず、対応する医療機関も少ない。

「毎日新聞と当事者団体が2016年に実施した全国アンケートによると、回答者80人のうち50人『吃音が原因で、学校や職場でいじめや差別を受けた』と答えた。」という。

<https://mainichi.jp/articles/20190318/ddf/041/040/018000c>

▼性同一障害で乗務を禁じられたタクシー運転手のケース

毎日新聞3月13日夕刊によれば、大阪のタクシー運転手が、性同一障害を理由に乗務を禁じられたとして提訴した(慰謝料請求訴訟)。運転手によれば上司らから「気持ち悪い」などと言われ、うつ状態になったと主張している。

▼障害を抱えながら「お笑い芸人」をやっているホーキング青山さん

「世間では^{がい}障害者がそばにいないからどんなヤツかわからない。わからないから想像するしかなく、とりあえず身体に欠陥があり動かないんだから『大変なんだろう』『ツライんだろう』『苦しいんだろう』という少ない判断材料で想像する。想像したものをトータルして『カワイそう』というイメージに結びつけてしまう。だから、『カワイそう』=『自分より劣っている』で、差別が生まれる。障害者は、どんなにバリアフリーだ、ノーマライゼーションだと言われるようになってもこの意識があるから弱者なのだ(ホーキング青山「差別をしよう14歳の世渡り術」河出書房新社2009年 ホーキング青山さんは、先天性多発性関節拘縮症のため、生まれた時から両手両足が使えない)。」

▼重い身体障害を抱える、れいわ新選組の木村英子さんへのインタビューより(2020年3月10日朝日新聞記事「やまゆり園事件判決を前に」)

23歳で結婚し、息子を出産しました。不安だったのは、子どもをかわいいと思えるかでした。母に抱かれた記憶があまりない私は、母に対する愛情が持てなかった。でも出産した時は、子どもへのいとおしさがこみあげました。公園デビューをしたときの事です。息子と子どもたちが砂場で遊んでいるのを、車いすに乗った私が近くで見えていました。私が母親だとわかった瞬間、周りのお母さん方が自分の子どもを抱き上げて帰ってしまった。私と関わると厄介なことになるといった意識が働くのでしょうか。